

令和2年度 函館地区の研究活動

研修部長 函館市立北美原小学校
校長 新谷 公康

1. はじめに

函館市では「自立」「共生」「創造」の理念のもと、「生涯を通じて学び続け、主体的に判断して変化する社会を生きる人」「寛容さと思いやりの心をもって、多様な人々と絆を結び共に支え合う人」「世界に目を向け、新たな価値を創り、まちの魅力を高める人」の育成を目指し、各種の教育施策を展開している。特に、本年度は「すべての子どもの学びの保障」「教育環境の整備」の2本の柱を重点取組事項として、コロナ禍における様々な環境等の影響により困難を抱えている子どもたちが等しく学べるための環境整備を推進している。

本校長会は、これら「函館の教育がめざす人間像」の具現化に向けて、会員の連携・協力を図り、子ども一人一人の確かな育ちを実現する教育の創造に取り組んでいる。また、先見性や識見、人格など校長としての資質を一層高める研修活動の充実に取り組むとともに、教育の今日的課題の解決のため会員相互の研究交流に努めることを基本方針に、全国連合小学校長会・北海道小学校長会との連携を基軸とした活動を推進している。

2. 研究計画

(1) 研究主題

「学校経営の改善・教職員の意識改革と校長の在り方」
～ 地域とともにある学校づくりを目指した取組を通して ～

(2) 研究主題の趣旨

函館市教育委員会は平成30年3月に「函館市教育振興基本計画」を策定し、平成31年度には「すべての子どもの学びの保障」「学校を核とした地域づくり」「教職員の業務改善」の三つを教育委員会における重点取組事項として示してきた。さらに、平成31年度は、函館のすべての市立学校・園がコミュニティ・スクールを導入する「コミュニティ・スクール100%元年」であり、各学校・園において「地域とともにある学校づくり」が進められている。

本校長会では、これらのことを受けて、学校間の情報交流等の連携をより密にし、各学校の実態を踏まえた取組について、これまで継続して検討、協議を深めてきた。

本研究においては、平成31年度が函館市における「コミュニティ・スクール100%元年」であることから、家庭・地域・学校が目標を共有し、一体となって子どもを育む「地域とともにある学校づくり」を推進する上で、校長が果たすべき役割や指導性、関与性等を明らかにし、学校経営のさらなる改善を図るとともに、CSへの積極的な参画など教職員の意識改革を進めることができるよう本主題を設定した。

(3) 研究の進め方

①実践目標

- 「地域とともにある学校づくり」に関わる現状や課題、体制の構築など必要となる取組を見定め、校長としての資質の向上を図るための研修活動を推進する。

- 「地域とともにある学校づくり」に向けた校長としての構想や学校・地域の実情を踏まえた取組について研究交流を推進する。
- 関係各機関や諸団体との緊密な連携のもとで、全国・全道及び全市的視野に立ち、研究内容のより一層の充実を図る。

②推進事業

- 学校経営に関わる研修会・講演会の企画・開催
- 各学校のコミュニティ・スクールの取組に関するグループ協議，調査とまとめ
- 道小研修部との連携（道小「教育北海道」の執筆協力等） など

3. 研究活動

(1) 教育経営研修会の企画・開催

教育関係者等による講演会及び研修会の実施。

校長の識見を高めるため、小学校長会と中学校長会が合同で開催。

「学校経営の充実のための教育講演会」（主管 函館市中学校長会）

- 期 日 令和2年10月13日（火）
- 講 師 北海道教育庁渡島教育局長 谷 垣 朗 氏
- 演 題 「学校全体で取り組む授業改善」

(2) 第63回 北海道小学校長会教育研究オホーツク・北見大会 中止（誌上交流）

(3) 第72回 全国連合小学校長会研究協議会京都大会 中止（誌上発表）

- 発表分科会 第13分科会「連携・接続」 <誌上発表>
- 研究発表者 函館市立湯川小学校 畑中 雅昭 校長
- 研究課題 「家庭・地域等と連携・協働による『地域とともにある学校づくり』に関わる校長の役割」
～「コミュニティ・スクール100%元年」における校長の関与について～

(4) 当面する教育課題に関する取組の企画・実践，情報発信

- 「コミュニティ・スクール100%導入」2年目となる本年度は、「地域とともにある学校づくり」を研究の柱とし，CSを円滑に推進するための校長の役割や指導性，関与性等の視点で，昨年度実施した検討・協議における各学校の取組や現状等に関わるグループ協議の概要の結果等についてまとめ，全連小京都大会への誌上発表及び情報発信を行った。

4. 各種研修会への支援と指導

(1) 「函館市小・中学校教頭会合同特別研修会」への支援・指導

(2) 「学校教育生き生きセミナー」（中堅教員の育成事業）への支援・指導

5. おわりに

本年度は，昨年度からの継続した研究主題のもと，コミュニティ・スクールの円滑な推進に向けた校長の役割や指導性，関与性等に焦点をあてて研究を進めてきた。また，コロナ禍における様々な制約や制限を受けながらも，可能な範囲内の学校経営の充実に資する各種研修会の実施や，道小での誌上交流や全連小への誌上発表等を通して，学校経営のより一層の充実・改善に取り組むことができた。